

を問う



合併二年目の春を迎えた庁舎



細田 栄

どうする合併 まちづくり計画 三位一体改革により厳しい

細田 伯耆町の最上位計画である、「第一次伯耆町総合計画」が策定された。計画期間が重複する合併まちづくり計画の取り扱いはどうなるか。

細田 総合計画は十年間の基本構想と、前半五年間の基本計画で構成され

画を尊重し、合併後の住民ニーズを加味して新町の総合計画を策定した。

ているが、この計画は現在の財政状況と整合しているか。

町長 現在の財政計画は、三位一体改革の中途のものであり、各事業の財源が全て担保されたものではないが可能な限り計画を実現させたいと思っている。

細田 このたびの総合計画と合併まちづくり計画の決定的な違いは、財政計画である。合併協議会が策定した「合併まちづくり計画」の財政推計に大きな誤算が生じている。合併協で決定した財政計画や事業計画は、他町に比べて誇るべきものであり自信を持っている。町税は減らないし、地方交付税は厳しく算定している。財政難が起きる

ことは絶対に無いと議事録に記載されている。

あれから一年余り経過した現在では、減らないはずの町税は合併一年目に一億円も減ってしまった。十年間で十億円の財源不足となる。これを支える頼みの地方交付税も、国の三位一体改革により財源移譲より国庫補助金のカットが大きく、地方交付税も減少するという地方にとっては非常に厳しい結果になった。

三年後の平成二十年には歳入総額が十億円減少することが、今回の総合計画で明らかになった。

町長 各年度の予算編成

時にローリングし、見直していきたいと考えており、現状では推計していない。

細田 今回の総合計画策定過程や、平成十八年度当初予算説明の中で町長から、財政難のためという言葉を度々聞いたが、合併前に描いた財政計画と現在の状況についてどのように認識しているか。

町長 合併まちづくり計画の財政推計は平成十四年度決算をベースに作成したものであり、その後の国の財政措置等をはじめとした経済情勢が大きく変動したことによるものであり、合併前には三位一体改革も視野になかったが、結果的には厳しい財政状況であると認識している。